

移送された保護ツル3羽は今

現

在継続飼育中の保護ツル3羽が、八代に移送されてから1年、2回目の夏を迎えました。この時期になると暑さ対策にスプリングクーラーをつけるのですが、昨年までは1羽しかその下に来なかったツルが今年は3羽すべてがやってくるなど、今年は暑いのかなと思ったりしています。

今年は新たに餌の種類にも工夫を始めました。飼育中の3羽は羽の状態があまりよくなく、換羽を待つて放鳥することが決まっていますが、羽の換羽を促進するため文献などを参考に、キイチゴやブルーベリーなどシベリアの繁殖地でのエサを与えてみました。この新しい餌は、ことさらツルには不評なようで、つまんで池に捨てられたり、米を食べるのに邪魔になるからと避けられたり散々な扱いです。餌については、更なる研究が必要だとひしひしと感じます。

何はともあれ、この3羽が元気に夏を過ごし、冬には八代の空を元気に飛べるよう、保護ツルの体調管理を万全に、怪我など無く過ごせるように飼育員と一緒に飼育を継続していきたいと思います。

ツル保護担当 増山雄士



6・60・906・606・96・60906・606・96・60906・606・96・60906・606・96・60906・609

漫画家 なかはらかぜさん から 八代へのメッセージ! No.12



今年も夏に徳山大学の学生たちがスケッチ研修にやって来た。1年生は今年が八代初体験だ!

九州や四国、広島から来ている学生もいる。どこでスケッチするのかと心配していると、二所神社の見える農道に座り込んで描いている学生がたくさんいた。

鳥居と神社は絵心をそそる風景だそうだ。今の子どもたちも神社を遊び場と心得ているらしい。よく友だちと昆虫採集をしたり、相撲をとったり、境内を走り回って遊んだものだ。

ツルたちにとっても魅力的な風景として映るように、いつまでも残したいと思った。



アサヒビールの社会貢献

「うまい！を明日へ！プロジェクト」

との連携について

環境省中国環境パートナーシップオフィス

事務局長 松尾 健司

暑い季節、多くの日本人が1日の疲れをいやす「プシュッ!!ゴク、ゴク」。つまり、晩酌のビール。今、山口県、そして日本で、一番売れているビールはアサヒビール株式会社の「スーパードライ」という銘柄です。今年、その売り上げの一部を全都道府県ごとの、自然や文化財を守る活動に寄付することになりました。

第1回目の対象は概ね4月の1ヶ月間に山口県内に出荷された「スーパードライの缶（2種類）」約320万本!!その1本の売り上げにつき1円が寄付されます。そのうちの多くが「ナベヅルと共生できる自然環境の保全活動」として保護活動に寄付されます。(全国では約2億2000万本!!)

当オフィスは、環境省が全国8箇所に設置した、環境保全活動や環境教育のための情報センターの1つです。日頃、中国地域の市民や行政、企業等の方からの情報収集や相談に対応していますが、今回の件はこれまでにない、規模と特性を持っていると思います。

○全都道府県ごとに、地域の担当者たちが、テーマを決めて取組む。

普通、全国を対象に寄付する場合、件数や限度額を決め公募するか、各県に支部を持つ団体の本部などに一括して渡すことが多く、大きな会社なら東京や大阪の本社の一部門が扱うことが多いのですが、今回、広島と山口を担当する支社が総力を投入し、地域と顔の見えるレベルで取組んでいます。寄付だけでなく、一緒に汗を流すことも希望されています。また、大都市圏の団体や、全国的に誰もが知っている希少生物や大自然ばかりが採択されるのではなく、各県の実情に応じた内容の取り組みが評価され、山口県を象徴する活動として「ナベヅルの保護」を選ばれました。

○金額=対象人数が多い。

商品1つにつき1円、というパターンはよくあるのですが、山口県内でこれだけの数が普及している商品はなかなかありません。言い方を変えれば、1円ずつ、何万人もの山口県民が、ナベヅル保護のために協力するキャンペーンだということです。それって素晴らしいことだと思いませんか?確かにアサヒビールの売り上げ貢献にもなりますが、お互いが正直に（腹の中を探らずに）、負担感なく取り組むことができます。

○今回だけで終わらない・・・

キャンペーンは、春と秋の2回、3年程度続く予定と聞いています。複数年度にわたり、ねぐらの整備といった、粘り強い活動が必要な分野に投資することができますのでぜひとも、継続的にアサヒビールの社員さんたちを巻き込んだ活動を実現してください。アサヒビールの中国統括支社の方たちも、どうやって地域と連携していけばいいのか、懸命に考えてきました。特に「多くの消費者の方からお預かりしたお金に対する説明責任」にきちんと応えようとしていらっしゃいますので、お互いが正直に意見交換をしていただければと思います。

最後に「じゃあ、中国環境パートナーシップオフィスは何を狙っているのか?」を正直に説明しましょう。協会やアサヒビール、そして地域の方々に「やってよかった!!」といえるプロジェクトにしてほしいのです。地方の環境活動は資金や人材が不足していますが、オフィスも例外ではありません。取組が成功すれば、他の企業や団体にも広がる、そのような素敵な取組をお手伝いすることが、最も効果的な仕事ですし、私個人としてもワクワクしています。今年は仕事の後のビールが、特においしい気がします。



寄付の報告を県民の代表者である二井知事に行っている、支社長さん（アサヒビールホームページより）

平成21年度 総会 開催



平成21年6月2日(火)19:00～ 鶴いこいの里交流センターにおいて本年度通常総会を開催しました。議事後、当協会顧問 ラムサールセンター事務局長・中村玲子さんにご紹介をいただいた九州大学大学院 工学研究院教授の島谷幸宏先生が「自然再生と地域づくり」と題し、1時間にわたって講演されました。先生は九州大学のご出身で、国土交通省にも勤務され、河川のエキスパートとして現在、ご活躍中です。先般、ニュースステーションでも都市における「小川」の復元の専門家として紹介されました。講演では自身が手がけてこられた「佐渡島」の自然再生等を紹介しながら、その大切さ、必要性を力説され一同真剣に聞き入りました。ツルと人が共生する八代の再生が必要という私たちの意見にも耳を傾けていただきました。

本総会で承認された議案は次のとおりです。

平成20年度 ナベヅル環境保護協会事業・活動

「第1号議案」

○平成20年

- 4月 7日 若者チャレンジプログラム スタート 1週間
- 4月22日 平成18年度会計監査
- 4月25日 理事会開催 総会議題および内容決定
- 5月13日 県よりナベヅルカード申し込み250件 さらに継続
- 5月20日 市長 教育長へナベヅルカード協力および動物園への申し込み設置依頼
- 6月 1日 平成20年度総会開催
- 6月 5日 市長 教育長と意見交換 サンルート 会長 副会長
- 7月18日 ねぐらを考える官民会議 西田顧問 意見発表
- 7月20日 ドジョウ放流 八代小児童参加
- 7月30日 鶴の里だより25号発行
- 8月25日 市ツル保護協議会出席 交流センター
- 9月 4日 後期若者チャレンジプログラム スタート 1週間
- 9月 5日 県教委次長と協議
- 9月 7日 若者チャレンジプログラム 交流会
- 9月14日 市長とツル増羽策について協議 サンルート徳山
- 9月27日 やまぐちりレーミーティング参加 県セミナーパーク
- 9月30日 大迫ねぐらの整備について地元地権者の協力同意を得る
- 10月 1日 ねぐら調査実施
- 10月 4日 ツルの餌場・ねぐら清掃
- 10月10日 月刊誌「サンライ」取材掲載
- 10月15日 周南地域ふれあいフェスタ打ち合わせ会 県民局
- 10月18日 県エコフェスタ参加 きららドーム
- ～19日
- 10月30日 農水省ヒアリング出席
- 11月 4日 ツルの里だより編集委員会
- 11月10日 出水市と姉妹都市提携
- 11月15日 ツルの里だより26号 発行
- 11月20日 中国電力広報誌 取材掲載
- 12月15日 ツルへの年賀状コンクール 応募開始



○平成21年

- 1月 7日 県自然保護課と情報交換
- 1月15日 ツルへの年賀状コンクール 応募締め切り
- 1月24日 第3回 生きものと人・共生の里シンポ 豊岡市で開催
- 1月27日 理事会開催 本年度事業の推進について協議 ツルいこいの里交流センター
- 2月 5日 ツルへの年賀状コンクール 審査会 ツルいこいの里交流センター
- 2月11日 市長と情報交換 市役所
- 2月13日 アサヒビールと協議 事務局 アサヒビール助成が正式決定
- 2月18日 野鳥の会 環境省共催「分散化シンポ」開催 市健康保険センター
- 3月 1日 ツルへの年賀状コンクール表彰式 勝間ふれあいセンター
- 3月 4日 広報編集委員会
- 3月17日 ツルの里米で作った日本酒「かほり鶴」発売
- 3月31日 鶴の里だより27号 発行